

【保育ママ】

自宅で他人の子供を預かる保育ママ(家庭的保育)は、日本にもありますが、フランスの場合、3歳未満の子供を最高3人まで自宅で預かることができます。

保育ママは、子供を預ける親の都合に合わせやすいため使い勝手がよく、支払う費用も比較的安くすむほか、保育ママという職業の存在自体が女性の雇用創出に役立つという効果もあります。

ご存じのように、日本では、保育ママになるためには、保育士の資格を有しているか、あるいは、認定研修を受け、保育士と同等の知識・技術を有していると市区町村長によって認められることが必要です。

フランスでも、保育ママになるには、初めに60時間の研修を受けて県から認定を受ける必要があるため、保育ママの質はある程度まで保証されています。

私が今回視察してユニークに思ったのは、保育ママは、週に1~2回、預かっている子供とともに保育所へ行って指導員から幼児教育を受けることになっており、その際、保育ママたちが一堂に会することになるため、お互いの情報を交換したり、役に立つ知識を共有する機会を持てることでした。保育ママであっても、いろいろな悩みや心配があるでしょうから、こうして仲間同士が定期的に交流できる機会を持つことの意義は非常に大きいと思いますし、それを通じて、保育ママたちはスキルアップしていくわけですから、親としても安心して保育ママを利用できると思います。

さらに、フランスでは、6歳未満の子供を家の外に預けた場合、それにかかった費用の50%の金額が所得税額から控除されることになっているため(最大1115ユーロの税額控除)、保育ママにかかる費用が家計に与える負担も軽くなっています。